

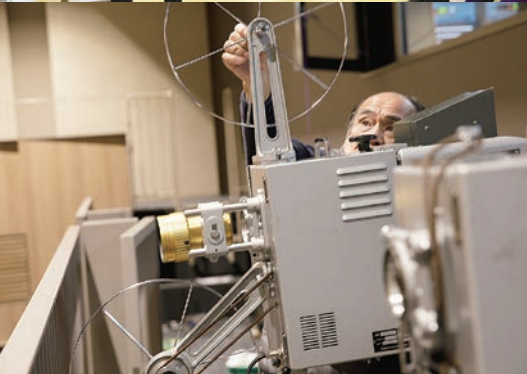
賛同企業募集
企画書



— 東日本大震災から10年 —
未来につなぐ
次世代へ伝える。

お申し込み・お問い合わせ

- | | |
|--|--|
| ●河北新報社 営業局営業部
〒980-8660 仙台市青葉区五橋1-2-28
TEL 022-211-1318 FAX 022-227-0923 | ●河北新報社 山形営業所
〒990-0025 山形市あこや町3-12-11
TEL 023-615-7228 FAX 023-622-7930 |
| ●河北新報社 東京支社営業部
〒105-0004 東京都港区新橋5-13-1新橋菊栄ビル7F
TEL 03-6435-8401 FAX 03-6435-8406 | ●河北新報社 大崎営業所
〒989-6162 大崎市古川駅前大通2-6-16
TEL 0229-22-7511 FAX 0229-22-9744 |
| ●河北新報社 大阪支社営業部
〒541-0041 大阪市中央区北浜2-1-23
TEL 06-6227-1051 FAX 06-6227-1060 | |



震災から10年。 地域復興のために新聞社が考える 復興支援プロジェクトの 新たな発展を見据えて。

東日本大震災から真の復興を果たすため、「今、私たちにできることはなんだろう?」という真摯な問いかけから震災翌年にこのプロジェクトが走り出し、今年度で9年目を数えます。これまでたくさんの読者や賛同企業の皆さまに参加・協力をいただきながら可能性を模索し、幅広い活動を展開してきました。

2021年3月11日で震災から10年。その節目を復興のマイルストーンとして見据えながら、新たな年度もまた、プロジェクトを推進していきたいと思っております。そのためには、本プロジェクトの理念に賛同いただく企業の皆さまのご協力が必要不可欠です。地域の復興を目指す志を共に共有し、厚いご支援のほど何卒よろしくお願いいたします。

2019年度の活動

- > 亘理町「海岸林の植樹と農作業体験」バスツアー
- > 女川町「懐かしい女川に会える映画鑑賞会
シンガーソングライター伊東洋平さんと一緒に
女川町のオリジナルソング制作」
- > 石巻市「鮎川浜の新しい魅力発見」バスツアー
- > こども未来応援教室

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の活動を中止しました。

これまでの詳しい活動の記録は
こちらからご覧いただけます。

<https://www.kahoku.co.jp/imadeki/>



そして、これから、できること。

今できることプロジェクト 2020-2021 展開案



1

松島町の魅力発信と観光支援

里山の新名物と古利見学で 松島の魅力を発掘。

風光明媚な湾内で育つ、良質なカキの産地として全国的な知名度を誇る松島町。その養殖に使われるカキ棚は、里山に生い茂る竹を活用していました。東日本大震災による津波は、この地で盛んだった養殖業に甚大なダメージをもたらし、再建を断念した事業者もいます。その結果、里山の竹林も荒廃する結果を招きました。震災前、名籠漁港でカキ養殖を営んでいた丹野隆子さんは、その状況を打開すべくタケノコの生産・加工に着手。宮城県地域活性化モデル事業とクラウドファンディングの支援により加工場を建設し、「たけのこ工房 吉左衛門」を立ち上げました。このツアーでは、これまで養殖業を支えてきた竹林を訪ね、整備のお手伝いをします。また、「たけのこ工房 吉左衛門」の加工場も見学し、その製造過程と取り組みについて学びます。

ツアー後半は、平成の大修理を終えた松島町のシンボル「瑞巖寺」を訪問。震災による被害を受けながらも10年掛かりで落慶した本堂を見学し、当時の様子を伺う予定です。

たけのこ工房 吉左衛門

松島町竹谷地区に自生する竹林の有効活用を目指し、2016年4月からタケノコを掘って水煮加工する事業をスタート。一本一本丁寧に皮を剥き、その日の内に茹で上げて真空包装するので、柔らかくて甘みがあると好評です。松島ブランド推進委員会の厳正な審査による「松島ブランド」の認定品にもなっています。

<https://www.facebook.com/kitizaemontakenoko/>

企画展開スケジュール(予定)

2020年10月上旬 参加募集スタート
2020年11月中旬 一般参加者による活動実施
2020年12月中旬 イベント採録紙面掲載

協賛社様へ

協賛社様からの 参加も歓迎

松島町の観光支援活動に賛同し、竹林整備のお手伝いと瑞巖寺見学に参加いただける協賛社の参加者を募集いたします。

そして、これから、できること。

今できることプロジェクト 2020-2021 展開案



2

仙台市荒浜地区の再生支援

地域の豊かさに触れて 生きがいを感じる学びの場を。

震災津波がすべてをなぎ払い、現在も荒廃した景観を残す仙台市荒浜地区。そのすさまじい威力は、震災遺構となって公開されている仙台市立荒浜小学校で知ることができます。かつてこの地域で培われてきた農・漁業、郷土の食文化などの豊かな「めぐみ」を思い起こし、これらを題材にさまざまなイベントや体験プログラムなどを実施しているのが「荒浜のめぐみキッチン」です。毎週土曜日に行っている、田畑の整備や屋外で朝ごはんを調理し、一緒に食べる「朝活」には、これまでたくさんの参加者が集い、土地に根ざした地域文化や自然との向き合い、さまざまな学びや感動を得てきました。

この取り組みは新たな段階に進んでおり、今後は荒浜を拠点に体験講座、貸し農園、飲食事業を活動の柱としてより範囲を広げて展開していくそうです。本プロジェクトでは、「荒浜のめぐみキッチン」の体験プログラムに参加し、その感想や意見交換を行うワークショップで活動を支援します。

荒浜のめぐみキッチン

荒浜地区の「めぐみ」(農や漁、海や運河、地域文化)を題材に、さまざまな体験を通じて土地に根ざした地域文化や自然との向き合い方を楽しみながら学べるイベントやプログラムを実施。子どもから大人まで幅広い年代の参加者に、「生きていく力」を養い、人生を豊かにするヒントを得られる機会を創出しています。

<https://arahamano-megumi.kitchen>

企画展開スケジュール(予定)

2020年10月中旬 参加募集スタート
2020年11月下旬 一般参加者による活動実施
2020年12月下旬 イベント採録紙面掲載

協賛社様へ

協賛社様からの 参加も歓迎

荒浜のめぐみキッチンの活動に賛同し、体験講座とワークショップで共に学びを深めていただける協賛社の参加者を募集いたします。

そして、これから、できること。

今できることプロジェクト 2020-2021 展開案



3

七ヶ浜町の海岸支援

みんなが愛する浜辺の 賑わいを取り戻すために。

明治時代から海水浴場として長く地元で愛されてきた七ヶ浜町の菖蒲田浜。やはりここも東日本大震災による津波で大きな被害を受け、遊泳禁止を余儀なくされていました。2017年に本格的な再開で大いに話題となりましたが、2019年7月13日～8月18日に集計した海水浴客は6万4000人と震災以前の数まで戻っておらず、さらに2020年は宮城県内すべての海水浴場の開設ができませんでした。

震災のマイナスイメージを払拭し、以前のように人々が集い賑わう環境にしたいと、久保田靖朗さんと喜多直人さんの2人が発起人となって立ち上げたのが「SEVEN BEACH PROJECT」。2012年からスタートしたロックフェス「七ヶ浜ビーチフェスティバル」は、回を重ねるごとにパワーアップしながら、若い世代の関心をこの浜に強く惹きつけています。この取り組みでは、定期的に行っている、語り部の方をガイドに行うビーチクリーン(清掃活動)に参加し、菖蒲田浜が賑わう未来の可能性を探ります。

SEVEN BEACH PROJECT

菖蒲田浜を東北一かつこいビーチにするアートプロジェクト。「ガレキからビキニへ」をコンセプトに、2012年からビーチフェスを開催してきました。さらに、七ヶ浜町内外の参加者を募り、ビーチクリーン(清掃活動)を定期的に実施。2017年夏、震災後初の正式な海開きによってたくさんの海水浴を迎えられたことを契機に、多彩なイベントや浜のマルシェ「びいいち」など、新たな展開も見せています。

<https://www.sevenbeachproject.com/>

企画展開スケジュール(予定)

2021年1月中旬	参加募集スタート
2021年2月中旬	一般参加者による活動実施
2021年3月上旬	イベント採録紙面掲載

協賛社様へ

協賛社様からの 参加も歓迎

SEVEN BEACH PROJECTの活動に賛同し、ビーチクリーンにお手伝いいただける協賛社の参加者を募集いたします。

そして、これから、できること。

今できることプロジェクト 2020-2021 展開案



4

こども伝承啓発支援

中学生が見て聞いて感じた 命の学びと教訓を記事で次世代に。

東日本大震災発生からいよいよ10年の節目が近づき、日常生活を取り戻した人々の記憶からも失われつつあります。さらに、中学生以下の年代になると、全く憶えが無いという子どもも少なくないでしょう。来たるべき大災害から一人でも多くの命を守るためには、記憶の風化を防ぎ、若い世代へ教訓を継承していくことが必要不可欠です。そこで、教訓の若き担い手である中学生たちに、宮城県内各地の被災地を視察してもらい、若者の目線から震災の事実と向き合う機会を創出します。

事前にオリエンテーリングを行い、十分な予備知識を備えて被災地を訪問。現地の語り部や追悼施設、震災遺構、復興めざましい地域などで学びを深めながら、肌で感じて実感を得る視察を実施します。その後、ワークショップでそれぞれの考えをまとめ、中学生自身が同じ世代に伝えたい東日本大震災についての記事を作成してもらいます。それをまとめた特集紙面を、宮城県内外の中学生や各施設へ配布する予定です。

企画展開スケジュール(予定)

2020年10月～11月	被災地視察
2021年2月下旬	特集紙面発行

参加予定の中学校

- 私立東北学院中学校
- 私立宮城学院中学校
- 仙台市立五橋中学校

視察予定の被災地

- 南三陸町
- 石巻市
- 名取市

紙面展開

プロジェクト掲載紙面

- 2020年10月1日から
- 朝刊カラー全15段、全5段 など

紙面に
賛同企業名
掲出

キッズプラス
未来

「今やること」
「プロヴィント」

「今やること」
「プロヴィント」

1

自然環境整備ボランティア

道路をよみて、自然へ触れ合う活動の中心に、
自然環境整備ボランティアが活躍しています。ボランティアの皆さんは、自然環境を整え、自然と触れ合う活動を行っています。自然環境を整え、自然と触れ合う活動を行っています。

3

杜重地区の観光支援

杜重地区の観光支援活動は、地域の魅力を高め、観光客を呼び込むことに貢献しています。地域の魅力を高め、観光客を呼び込むことに貢献しています。

2

地域でのコミュニティ活性化支援

地域でのコミュニティ活性化支援活動は、地域の魅力を高め、観光客を呼び込むことに貢献しています。地域の魅力を高め、観光客を呼び込むことに貢献しています。

4

こども未来応援教室

子ども未来応援教室は、地域の子どもたちに学びの機会を提供し、地域社会の発展に貢献しています。地域の子どもたちに学びの機会を提供し、地域社会の発展に貢献しています。

たゆまぬ歩みに希望を懸けて。

「今やること」
「プロヴィント」

「今やること」
「プロヴィント」

[illegible][illegible]

賛同企業
ロゴを月1回
掲出



河北 今できること

賛同企業ロゴ

8

ホームページとSNS

今できることプロジェクト オフィシャルホームページ

<https://www.kahoku.co.jp/imadeki/>

新聞読者だけでなく 広く活動内容を発信

今できることプロジェクト特設webサイトで、新聞読者以外の方々にも取り組みを発信していきます。紙面と連動してサイト内に記事や動画を掲出するとともに、紙面を読んだ意見や感想、復興応援メッセージや現在取り組んでいる支援などを紹介。誰でも自由に参加できる広場になっています。



今できることプロジェクト Facebook

<https://www.facebook.com/imadeki/>

記事と連動しながら 賛同者と情報共有

今できることプロジェクト関連の情報や、復興に関わる新聞記事のリンクを随時アップしています。被災地の「いま」を伝えてまいります。



協賛料金について

お申し込み締切 2020年9月18日(金)

※プロジェクト期間途中からの協賛も可能です。ただし、協賛料金について同額になります。

賛同企業メニュープランA

300,000円(税別)

- ①各回特集紙面に企業名表記
- ②毎月1回、朝刊カラー全1段で企業ロゴ掲載
- ③被災地支援活動取材(または素材提供頂く)し、朝刊記事体モノクロ3段1/2を1回掲載
※被災地支援活動以外の原稿を掲載希望の場合、朝刊カラー4段1/4相当を1回掲載
- ④特設webサイト内で企業ロゴ掲載およびリンク設置
- ⑤松島町の魅力発信と観光支援、仙台市荒浜地区の再生支援、七ヶ浜町の海岸支援への参加権利(各回2名まで)
- ⑥子ども伝承啓発支援で中学生が作成した特集紙面に企業名表記

賛同企業メニュープランB

1,700,000円(税別)

- プランAの①～⑥は共通メニューです。
- ⑦朝刊カラー全5段のフリー掲載
(掲載期間／2020年9月～12月)

賛同企業メニュープランC

3,600,000円(税別)

- プランAの①～⑥は共通メニューです。
- ⑦朝刊カラー全15段のフリー掲載
(掲載期間／2020年9月～12月)

東日本大震災からまもなく10年となることから、企業として震災発生時からの10年間の取り組みをまとめておきたい、企業として新たなフェーズとしてどのような取り組みをしたら良いのか、企業研修として被災地へ訪問を考えたい、など東日本大震災支援関連でのお困りごとなどございましたらご遠慮なく当プロジェクト事務局にお問い合わせください。